

国立大学法人九州大学入札監視委員会定例会議 議事概要

開催日及び場所	令和元年12月10日(火) 九州大学伊都ゲストハウス多目的ホール	
委員	委員長 新関 輝夫(藤井・梅田法律事務所) 委員 日下 健太(日下健太公認会計士税理士事務所) 委員 永友 清司(株式会社キューデン・グッドライフ)	
審議対象期間	九州大学、福岡教育大学、九州工業大学:平成30年7月～令和元年6月	
抽出案件(合計)	9件	(備考)
工事(小計)	5件	今回の審議対象期間においては、再苦情の申立て及び同審議依頼はなし。 8月26日の入札監視委員会(予備会議)にて委員より抽出された案件について個別審議を行った。 その際、説明資料に基づき各発注機関の担当者から説明を行い、質問等への回答を行った。
一般競争 (政府調達協定対象工事)	0件	
一般競争 (政府調達協定対象工事を除く)	4件	
公募型指名及び 工事希望型競争	0件	
通常指名競争	0件	
随意契約	1件	
設計・コンサルティング業務	4件	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	なし	

※ 委員からの意見・質問、それに対する回答等はできるだけ詳細に記入すること

質 問	回 答
<p>九州大学 (1)建設工事及び設計・コンサルティング業務に関する入札・契約手続の運用状況等の報告について</p> <p>資料1：総括表(建設工事) (平成30年7月～令和元年6月契約分)</p> <p>・特になし</p> <p>資料2：総括表(設計・コンサルティング業務) (平成30年7月～令和元年6月契約分)</p> <p>・特になし</p> <p>資料3：指名停止一覧表について (平成30年7月～令和元年6月契約分)</p> <p>・特になし</p> <p>(2)予備会議において抽出された建設工事及び設計・コンサルティング業務の審議について</p> <p>資料4：(箱崎)旧理・工地区跡地(1-F工区)汚染土壌処理等工事【総合評価落札方式(実績評価型)】</p> <p>・発注時期を検討していくとのことであるが、他機関における工事の発注状況を把握し、その工事の時期を外して入札をするということは可能なのか。</p> <p>・実績評価型総合評価落札方式を採用した理由について</p> <p>・構外搬出処理については、同処理を扱う業者に持ち込むということで、必ずしも自社で事業者が所有しているということはないのか、また、そこで優劣がつくということはないのか。</p>	<p>・土壌汚染工事は市あるいは国交省が主に発注すると思うので、同機関のHP等で発注時期を確認していきたい。また、早めの発注を検討していきたい。</p> <p>・本学の競争参加資格等の申し合せの中では、予定価格が8千万円以上6億8千万円未満は原則実績評価型を採用しており、その金額の範囲内であるため。</p> <p>・箱崎のキャンパス内に土壌汚染を洗浄するプラントがあり、そこでは当初の15倍までの水銀洗浄が可能である。それ以外の物質については、浄化後搬出、15倍以内のものはプラントの方で処理を行う仕様となっているので、それほど優劣はつかないと考えている。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・この土壌汚染対策工事において、特殊の実績が少ないということは、そもそも同工事を行う業者が少ないということか。それとも業者に実績がなかったということなのか。 ・業者が少なくなるというのは、想定できていたのか。 ・結果的に1者になったということであるが、同様な工事は今後もあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業者に聞いたところ、工事の実績自体が少ないとのことであった。 ・入札説明書交付業者数が5者いたので、ある程度は入札に参加すると見込んでいた。 ・今後も同様な工事は起こりうるので1者入札とならぬよう国交省、市役所のHP、以前、資料を交付した業者や入札に参加いただいた業者にリサーチをかけて、発注時期や条件等を検討していきたい。
<p>資料5 : (筑紫)クエスト実験棟空調設備改修工事【一般競争入札(最低価格落札方式)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本改修工事では、既設空調設備を更新したとのことであるが、空調設備のメーカーはどこか。 ・工事の概要を簡単に教えていただきたい。 ・参考見積書はどのような基準で徴取しているのか。 ・今回、50%以下で落札した原因としては、資材が安く手に入ったというのが主な原因なのか。 ・仮に諸経費が極端に安くなった場合には、逆に大丈夫なのかと思うが。 ・落札業者以外の他の業者の入札価格が低かった理由は何か。 ・実勢価格調査を今後やっていきたいとのことだが、どういう方法で調査を行うのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のメーカーについては、すぐにはわからないが、通常のアキュムレーター交換工事である。 ・空調機の交換、そして配管・室外機の取替である。 ・参考見積書は、仕様を決めて各メーカーに対応の可能性を尋ねて、対応可能であれば見積をとることになっている。その中で安価な会社の参考見積価格に低減率をかけて内訳書を作成している。 ・資材価格も原因の1つだが、それ以外に諸経費が加わる。公共工事であれば、諸経費の算出方法は決まっているので、我々の積算金額より安価となる場合が多く、それが低廉となった理由でもある。 ・低入札調査時に安全対策であるとか材料の保管場所等の事情を受注者に聞き、安全対策の面から妥当な金額であるかどうかを確認している。 ・すべての業者が空調機の価格が安くなっているわけではないが、諸経費を予定価格の半値くらいに入れているところもあり、それが原因である。 ・通常であれば、製造業者・メーカーに問合せをしているが、今後は代理店にも聞くようにしていく。そういった情報を総合的に判断していきたい。
<p>資料6 : (伊都)イースト1・2号館電気設備工事【随意契約】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元工事と今回の改修工事の工事費は同じくらいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元工事と今回の改修工事は規模が違うので工事費には大きな差がある。

・もう少し汎用性のある機器配置での施工はできないのか。

・元工事の竣工と本工事発注の期間にもう少し余裕があれば競争する可能性はあったのか。

・今後の改善方法であるが、教授が変わったら設備や使い勝手も変わるとなればなかなか難しいのではない。

資料7 : 馬出地区他施設維持保全業務【一般競争入札(最低価格落札方式)】

・入札業者がもともと少ないことが予想されたとのことであるが、それは何故か。

・ここは包括にした方が、御校にとっては効率的ということであるが。

・これは受電設備であるが、停電作業、電気を止めて行う作業なのか。

・どこの時期にどこをやるかというのは、ある程度受注者に任せて受注者の方で調整しているのか。

資料8 : (箱崎)旧理・工・農・人文社会科学系地区跡地(Ⅱ-A・B・C・E・F、Ⅲ-A工区)土壤汚染状況調査業務【一般競争入札(最低価格落札方式)】

・分析費のコスト縮減が目立つ。
中身をもう少し詳しくご説明いただきたい。

・そうであれば、今後分析する場合に、その分析業者にこれぐらいでやれるということで、最低価格の決定は、当然下がってくるのか。

・備品やコンセントの設置場所を教員に確認をしながら設計図を作り、それで施工しているが、教員とのやりとりは数年前に行っているため、教員によってはどうしてもこっちに移動したい等の要望がある。

・可能性はある。但し、今回の場合はまだ使用していない建物で、使用後にトラブルは起きやすく、未使用の状況で違う業者が入った時には責任分界点があいまいになるため随意契約とした理由の一つである。

・今後変更があれば、教員に研究費等で補填していくとの説明を設計前に行っていきたいと考えている。

・大きな物件になると福岡では参加業者が少ない。全国規模でみると参加業者はいるようであるが、なかなか福岡の物件には参加していない。

・包括にしてスケールメリットを出すという意味ではかなり有効だと思う。分離して発注するよりは事務手続の労力が削減されている。但し、あまり大規模にすると参加業者が少なくなるため、今後、発注方式については検討していきたい。

・毎月の点検については、停電作業は行わないが、年に一度の点検作業は停電作業となる。

・そのとおりである。受注者が各地区の担当者に希望日を聞いて、日程を調整している。

・業者からのヒアリングによると、今まで実績のある会社(1社のみ)に見積を取っていたが、同社が新しく開拓した分析会社に見積をとり、比較して可能になったと聞いている。

・今回の案件に対しては、基準価格というのがない。今後、調査会社がいくつも落札したとか、入札に参加する際にどの調査会社を使うかというところまでは、我々の方で把握できていないので、今後どういう情報を分析会社から徴するかなど、検討していきたい。

・今回の案件となっている土壌汚染状況調査業務と土壌汚染調査設計業務はそもそも内容が全然違うものなのか。また、かなり応札業者が多いが、何か理由があるのか。

・分析は、そのコンサルタントの方から、分析できる機関とか器具をもたれているところに外注し、その分析データを元に受注したコンサルタントの方で行うという意味合いで、その中で業務遂行が可能であるということ。また、同コンサルタントが適正に実施できると判断したのには、分析機器の性能データとか、あるいはそのプロセスをどう管理しているのか。技術者がいるかどうか、そうした理由で評価をされたのか。

資料9 : 伊都地区自動扉設備保全業務【一般競争入札(最低価格落札方式)】

・どうして入札価格が大きく違うのか。

・予定価格の1/3の価格で自動扉の点検ができるのはどうしてか。

・メンテナンスの実績が豊富で、いろんなメーカーの部品をストックしたら安くなるという可能性はあると思うが、実績があればメーカーさんとの交渉力でここまで値段が落ちるといふ理解でよろしいか。

・本業務は、これまで包括発注していたものを分割発注したものなのか。

・今回は自動扉の他にも分けたものはあるのか。

・今回の状況調査というのは、まず始めに、どこに土壌汚染があるのかという平面的な調査をし、そのあるところから今度は深さ方向(ボーリングで採取した)の土のサンプルを分析し、含まれている汚染物質の分布図を作る作業が汚染詳細調査になる。一方、設計業務はその土を搬出するための基礎等の解体や、土砂の掘削・運搬・埋戻しなどを設計したりする設計業務も一緒にやっており、その業務内容が違う。

また、応札業者の数については、福岡県内の地質調査と土壌汚染調査をしたことがある会社自体が多いのではないかと、それでこれだけ参加者に来ていただけたのではないかと思う。あと、簡単なボーリング調査なので、参加しやすいということでそういう資格を持つところであれば、手を上げて、参加しているのではないかと考えられる。

・分析機関は、環境省が認定している公的な分析機関でないといけないというのがまずあるので、そのリストに入っている業者であれば、まず問題はないと判断している。

・落札者とは取引がなかったため、参考見積りは徴取していなかった。

・今回受注した会社は、建築工事会社の系列のメンテナンス会社で、親会社の施工したビルを中心に全国規模での事業を行っているため、安価な価格での業務が可能となったのではないかと思われる。

・そのとおりである。

・内閣府のガイドラインとかを見ても、やはりスケールメリットがあるのではないかと、我々もそういったガイドラインに基づいて包括発注していた。業務規模が大きいと、参加業者が少なくなってくるので、自動扉を分割した事例からも今後の発注方式を検討していきたいと考えている。

・他にも3件分割発注したが、逆に分けて不落になり、包括発注に戻した例もあるため、そこを見極めながらやっていきたい。

福岡教育大学

(1)建設工事及び設計・コンサルティング業務に関する入札・契約手続の運用状況等の報告について

資料1：総括表(建設工事)
(平成30年7月～令和元年6月契約分)

・特になし

資料2：総括表(設計・コンサルティング業務)
(平成30年7月～令和元年6月契約分)

・特になし

資料3：指名停止一覧表について
(平成30年7月～令和元年6月契約分)

・特になし

(2)予備会議において抽出された建設工事及び設計・コンサルティング業務の審議について

資料4：(赤間)教育総合研究所大1教室等改修工事
【総合評価落札方式(実績評価型)】

・3者入札して3者とも低入札というのは企業努力によると書いてあるが、実際そのような判断に至ったのは予定価格等の状況を勘案してなのか。

・今後の反省材料として、企業努力がなされているかなされていないかによって最低価格が違って来るだろうとのことであるが、企業努力の分をどうやって査定するのかというのは、発注する側としては難しいと思うが、どのように検討していく予定かをお聞きしたい。

・業者から見積書を徴する段階では、その業者が応札するかどうかというのはわからないが、応札しなかった場合の対策はあるのか。

・調査を実施した段階で低価格であったため、企業努力という話もあるが早期に発注できたことが大きいと思う。3者辞退したというのは、その間に他の工事を受注したということで、こちらに配置予定技術者を配置できなかった。残った3者の業者には頑張っていたという話だと思う。また、工事内容が建具と内装の床工事が大部分を占めるということで、工事費を削減できたのではないかと。

・業者に見積をとる場合に、指針とか積算基準は決まっているため積算価格を変えようがないため、見積書徴取時に実勢聞き取り調査をして実勢価格かどうかの判断をしっかりと行っていきたい。

・見積りは、専門業者から取る場合が多いため、入札に参加するような業者から直接取るというのは少ないため対策は難しい。

九州工業大学

(1)建設工事及び設計・コンサルティング業務に関する入札・契約手続の運用状況等の報告について

資料1：総括表(建設工事)
(平成30年7月～令和元年6月契約分)

・特になし

資料2：総括表(設計・コンサルティング業務)
(平成30年7月～令和元年6月契約分)

・特になし

資料3: 指名停止一覧表について
(平成30年7月～令和元年6月契約分)

・特になし

(2)予備会議において抽出された建設工事及び設計・コンサルティング業務の審議について

資料4:(若松)研究実験棟(低層棟)外壁改修工事
【総合評価落札方式(実績評価型)】

・当初は競争参加資格者等専門委員会において、本件の工事価格が2千万円以上となるため低入札価格調査を実施する予定となったが、結果として予定価格が2千万円未満となり低入札価格調査対象外に変更となったのはいつなのか。

・これに関連して、例えば、条件が変わり変更内容を追加するといったときに、委員会の開催や学内の手続きというのは必要ないのか。

・御校の方で落札率は全体的に低かったという結果になると思うが、そこはどのように考えているか。

・予定価格は概算であるが、公告日までに決まっており、当初は2千万円以上を見込んでいたため、低入札価格調査の対象であった。公告後、予定価格を精査したところ、2千万円未満となることが分かったため低入札価格調査の対象外となったところである。

・変更等における手続きについては行っていない。が、検討したいと思う。

・共通費については、公共工事積算基準で決まった率が定められており、本学では同基準に基づいて積算している。一方、落札業者は企業努力により共通費のコスト縮減を図っており、そこで本学と受注者との間に乖離が生じる原因として一つある。

また、本学が専門業者から徴取した見積書に対して低減率をかけた金額と、入札参加業者との間で乖離が生じていることも原因の一つと認識している。共通経費については率が定められているため対応は難しいが、専門業者からの見積書の低減率については、本学の予定価格と入札参加業者の金額を分析し、低減率の見直し等を検討していきたい。

資料5: (戸畑)基幹・環境整備(ブロック塀対策)設計
業務【一般競争入札(最低価格落札方式)】

・人件費の使途減ということであるが、大丈夫なのか。
法律上で最低賃金というのがあるが、そこをオーバー
して使途減ということはないのか。

・業務の内容としては、わりと単純なものなのか。

・問題ない。人件費の工数が低かったという意味であ
る。

・はい、既存のブロック塀を撤去して新設のフェンスに
変えるものである。

委員総評

(九州大学、福岡教育大学、九州工業大学3大学全体について)

・改善された点を2点、改善すべき点を1点申し上げます。

○改善された点

・改善された点の1点目は、応札者を増やすという取り組みである。これについては必要とされる資格を緩和するということによって、そういう努力がなされたと言える。2点目は、工事の発注方法である。包括的な発注から個別発注に変えたということによって入札価格を減らし、応札しやすくするという努力が見られ、質疑応答の中で、全部ではなくて場合によってはとらえたが、そういうところは評価されてもいいのではないかなと言える。

○改善すべき点

・次に改善点であるが、一方で低価格入札がかなりあったのではないかなということなので、もう少し入札価格の設定を慎重にすべきではないかなという点である。どうして低価格となったのか理由を伺うと、企業努力だと皆さんお答えになる。
企業努力というのは、企業の口実的理由なので、それをあらかじめ評価するというのは、なかなか難しいのではないかなという気がする。どうやったら低入札価格を少なくすることができるのか。要するに最低落札価格をどうやったら引き下げることができるかということが今後の課題である。